

三者面談

先生も保護者も生徒も「面談」について何かしらの先入観や思い出とかお持ちでしょう。面談でお悩みではありませんか？ それならば、まず教師が落ち着いて「面談はこうあるべき」「面談はこうしたい」という思いから、何が可能なのかよく考えて具体的に面談が終わったときに無理なく「こうなってる」という面談のゴール設定を決めて、さらに先の解決像(生徒のより良い未来)に向けたスモールステップの支援の場をつくりましょう。

多くの面談は学校側が機会をつくって実施しますので、先生の側に目的があって教育という全体の流れの中で行われますから、控えめに言っても目的の1つとして生徒が良い方向に変化する(させる)ことがあります。しかし保護者のなかには周りの保護者やネット情報から先生や学校を疑っていたり、言いたいことを言う覚悟でいらっしゃる場合もありますし、生徒の方は逃げ場の無いところで何か問い詰められたりするのではないかと心配していることもあります。これからご紹介する方法は無理やり原因を正させるとか、何かを押しつけるとかしませんので、参加する全員にとって安全な方法といえます。

保護者にとって初めての子供の場合、特に中1の場合など面談ももちろん初めてですから何を言われるのかとドキドキしながら当日出席される保護者も多いはず。また、教師の側も学年が変わったりして初めて保護者と時間を決めてお話しするわけですし、初めての担任ならば保護者の方がすでに中学を卒業した子供がいたりすれば、これまた緊張していることがあります。先生の緊張は責任感から生じているはずですから、責任を果たすために前もって手順などを具体的に確認しておけば大丈夫、ほどよい緊張感が持てるはず。

面談の一例を以下にまとめてみました。

- ①はじめに、学校に協力し、来ていただいたことに感謝する気持ちをお伝えします。
- ②問題追及などをしないので、よいことを見つける場である(誰一人も傷つける場では無い)ことをお伝えします。
- ③学年で共通した「学習」「成績」「生活」「その他」などについて、情報をお伝えします。
- ④担任から見て(③の中でもOK)特に良かったことを、理由も含めてお伝えします。
- ⑤保護者から(家庭でOK)特に良かったことを、(理由も含め)お話しいただきます。
- ⑥本人からも特に良かったか比較的良かったことを、(理由も含め)話してもらいます。
- ⑦気になっていることがあれば、⑦⑥⑤の成功例をもとに解決方法を話し合います。
- ⑧最後は、過去の成功例⑦⑥⑤で印象に残ったこと1つ+「良かったですね」終了。



解説

- 入退出時の姿勢や動き服装などすべてが言葉ではないメッセージとして伝わります。
 - 面談には当然来るべきかも知れませんが、来てくれたことはありがたいはずですからそこにしっかりお礼を言います。気持ちを口に出すことで保護者にも教師自身にも良い効果が期待できます。もちろん笑顔やしぐさも大切で、どんな雰囲気ですすめたいのかを考えてみます。
 - 座る席が正面だと敵対的な印象にもなりますからほんの少しでもずらします。一応、伝えたいことがあるなら相手の右前、相手の気持ちを尊重したいなら左前、親密対等ならば横の位置がいいと言われますがご参考まで。右の図を参考にさせていただくと解りやすいと思いますが、保護者の左前で生徒の右前が調べたら多かったです。
 - 学年で共通した連絡や結果など事実を伝えます。出来事は本人限定の良いことを。
 - たまっていた問題を洗いざらいきっぱりと伝えて直させたいのはわかりますが、保護者であっても直すのは難しいですし、本人や保護者は教師に言われなくも、ある程度問題点に気付いている場合がありますから、どうかしたくても出来ないことを言われても困るだけで、欲しいのは指摘では無く解決ということもあります。
 - 過去は変わらないし、新しいやり方を身につけるのも急にはできませんから、解決策は本人がすでに出来ている成功例を見つけることがポイントです。
- 普段のいいとこさがしを！
- よくわからなかったら①②③④⑦⑧で終わってもいいと思います。
 - 部屋を出た後や家に帰った後の親子の会話を想像し、いい感じで終わります。